

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料



2026年7月27日
SBIグローバルアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長 朝倉 智也

本日のメッセージ

- 【1】 統合効果を実証 - EPS成長が希薄化を上回り、中間増配を決定
- 【2】 成長戦略-オルタナティブ・デジタルで高収益化を実現
- 【3】 完全AIドリブン化による組織変革
- 【4】 2030ビジョン:資産運用残高50兆円・EPS130円～150円

PART 1

統合効果を実証 – EPS成長が希薄化を上回り、中間増配を決定

17期連続増益・増配の先へ

2027年3月期第1四半期の連結業績

(単位:百万円)

	2026年3月期第1四半期 (2025年4月～2025年6月)	2027年3月期第1四半期 (2026年4月～2026年6月)	前年同期増減
売上高	2,844	過去最高 12,823	4.5倍
営業利益	513	過去最高 2,663	5.2倍
経常利益	793	過去最高 2,701	3.4倍
四半期純利益 (親会社株主帰属)	501	過去最高 1,389	2.8倍

希薄化を超えるEPS成長

株式数+54%に対し、EPSは+80%

EPSの増加率(+80%)が、統合による株式数の増加率(+54%)を上回る

(単位:百万円)

	2026年3月期第1四半期	2027年3月期第1四半期
四半期純利益 (親会社株主帰属)	501百万円	1,389百万円
期中平均株式数 (四半期累計)	89,673,475	138,085,086
一株当たり 利益(EPS)	5.59円	10.06円

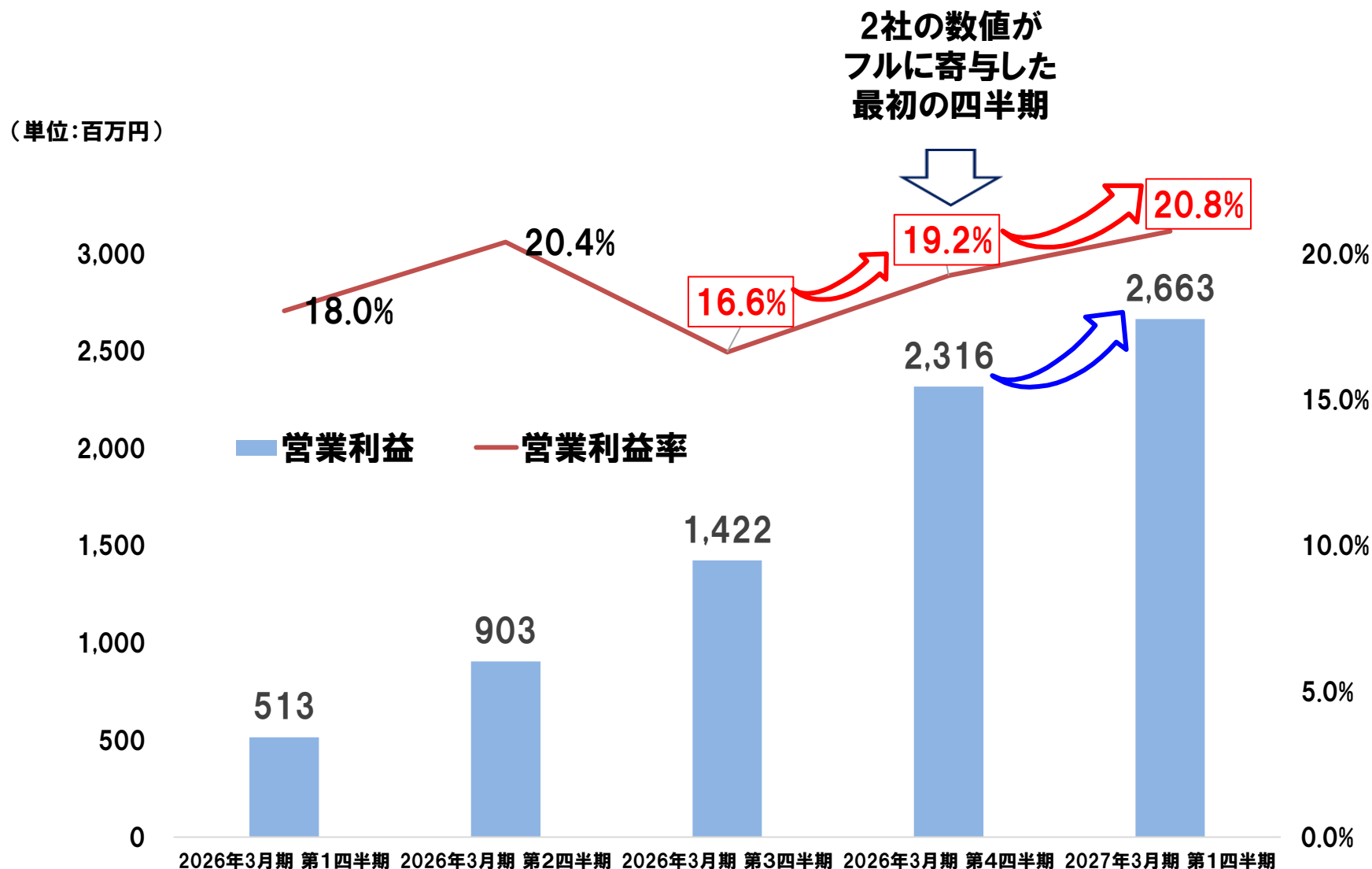
2.8倍

+54%

+80%

*一株当たり利益の算出は期中平均株式数を採用

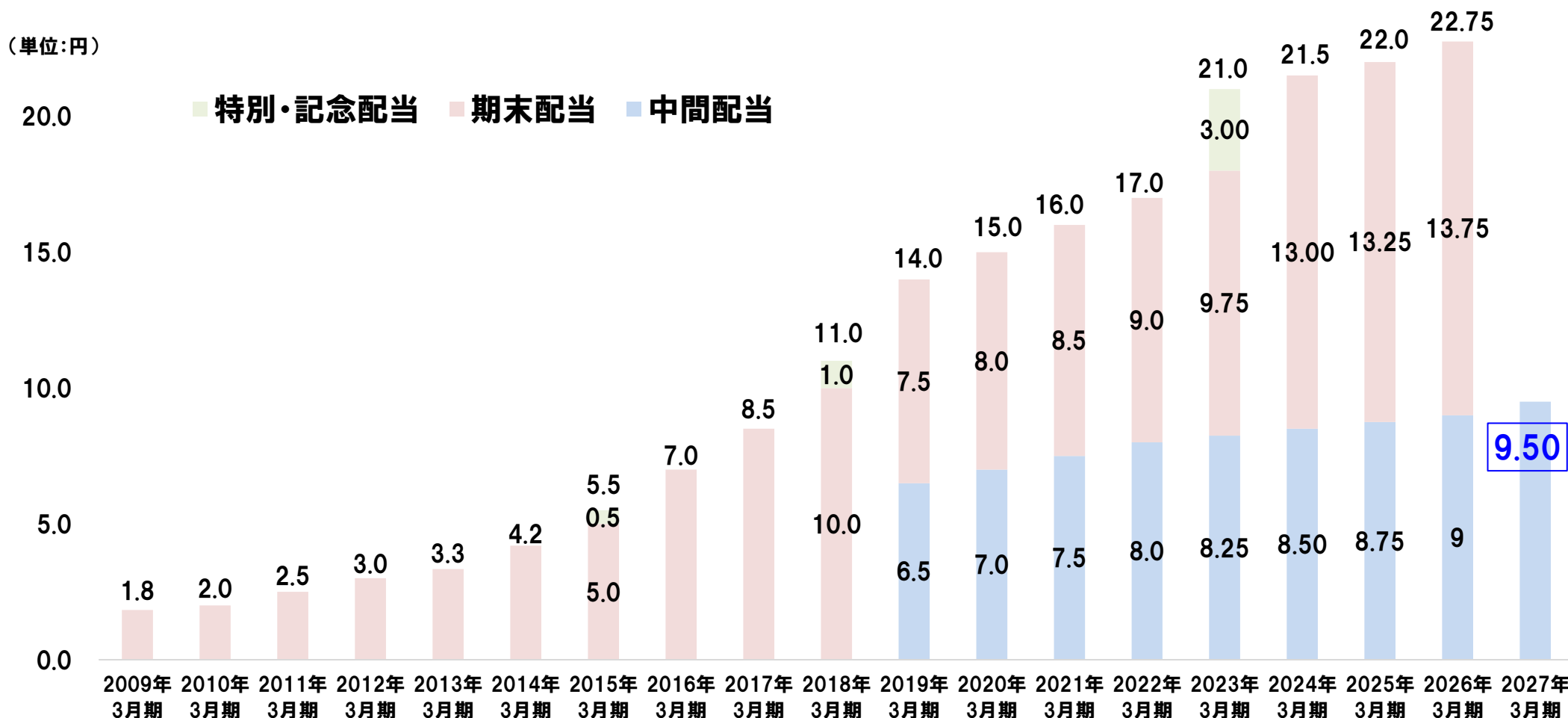
2社統合後に四半期営業利益・営業利益率が共に向上



中間配当は9円50銭へ増配 ― 8期連続の中間増配

前期中間配当 (9円00銭) から50銭の増配

期末配当は2026年3月期まで17期連続増配、18期連続増配の継続を基本方針



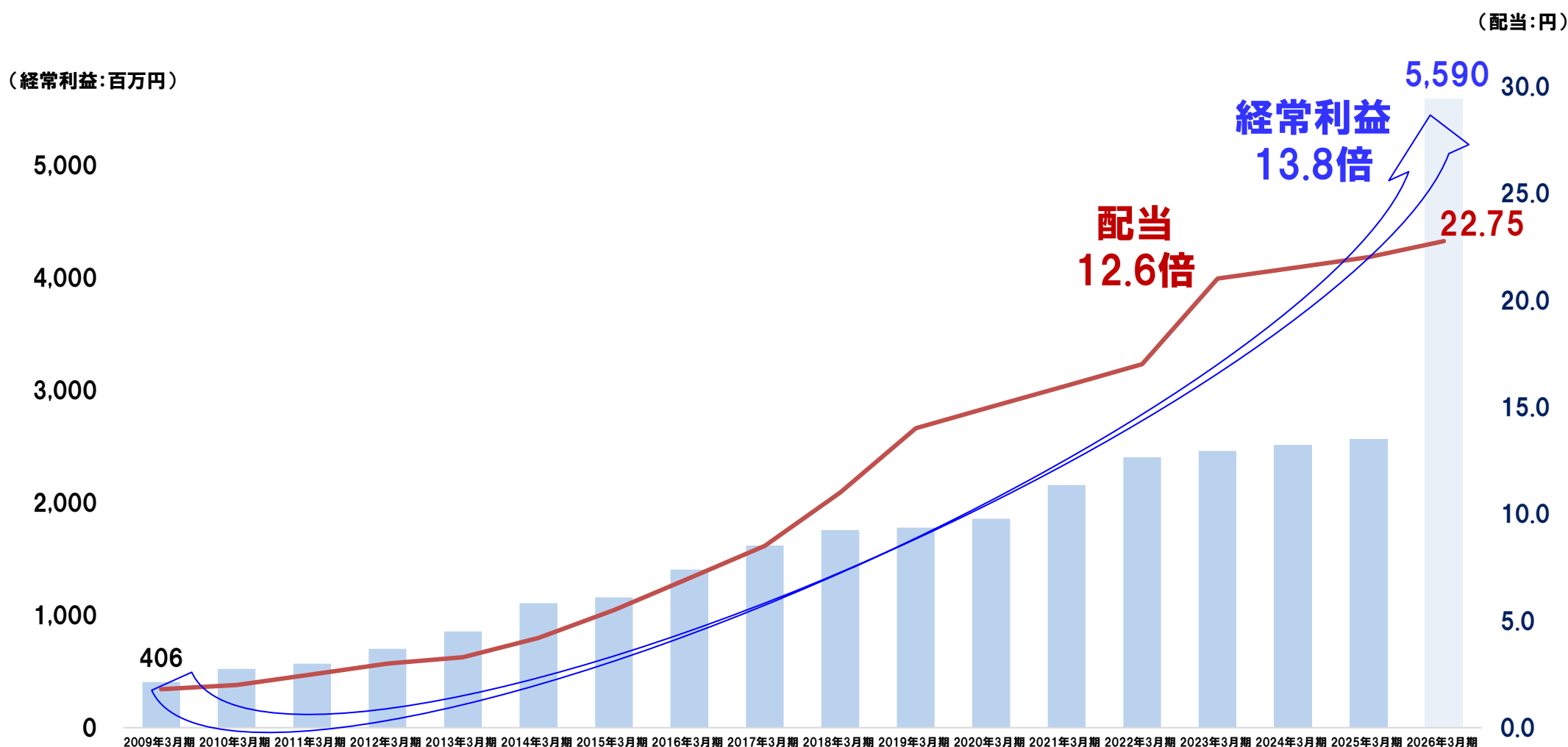
※ 2015年3月期の記念配当は、上場15周年記念配当

※ 2018年3月期の記念配当は、設立20周年記念配当

※ 2023年3月期の特別・記念配当は、ブランド売却による特別利益計上と設立25周年による記念配当

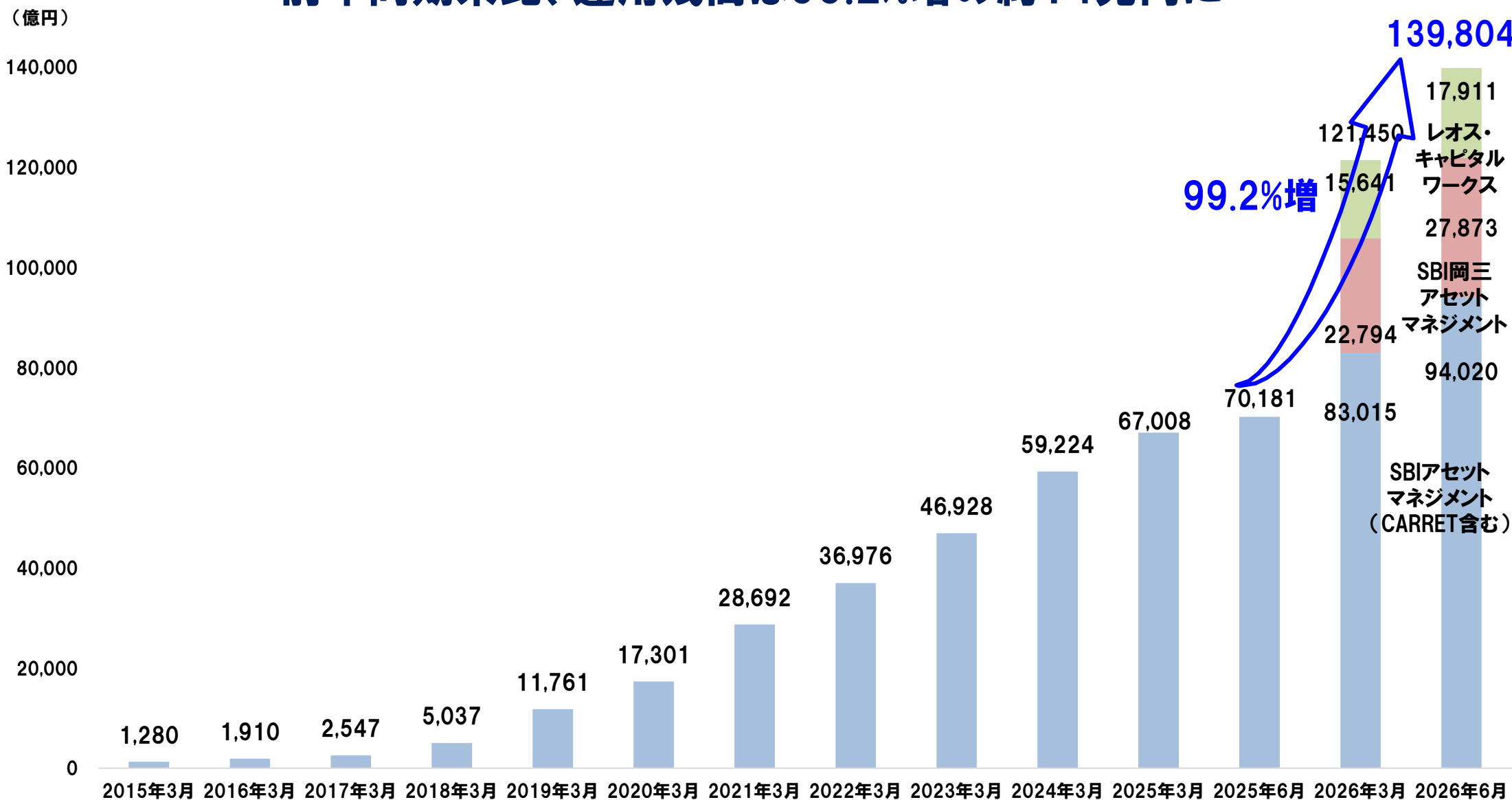
17期連続の増益・増配 ― 経常利益13.8倍、配当12.6倍

2027年3月期:1Qで前期通期経常利益の48%に到達
18期連続増配の継続を基本方針



運用残高14兆円へ ― 前年同期末比2倍

前年同期末比、運用残高は99.2%増の約14兆円に



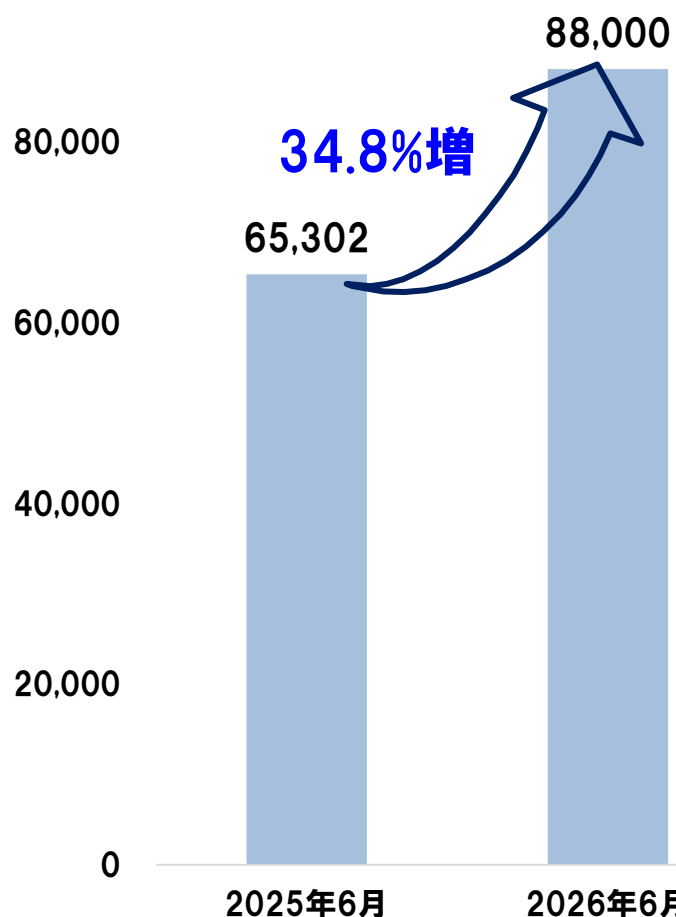
運用会社3社そろって2桁成長

<SBIアセットマネジメント>

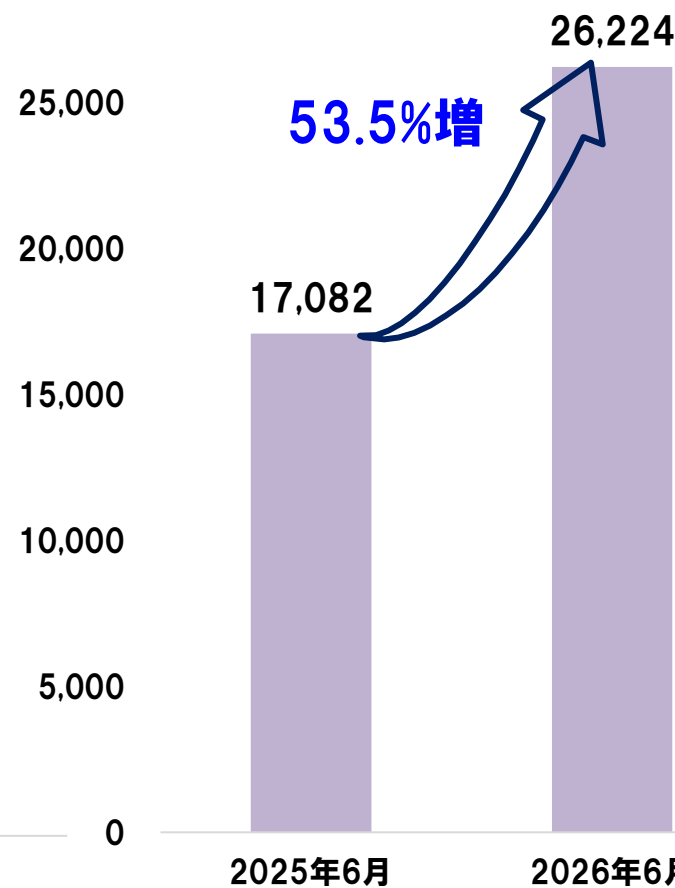
<SBI岡三アセットマネジメント>

<レオス・キャピタルワークス>

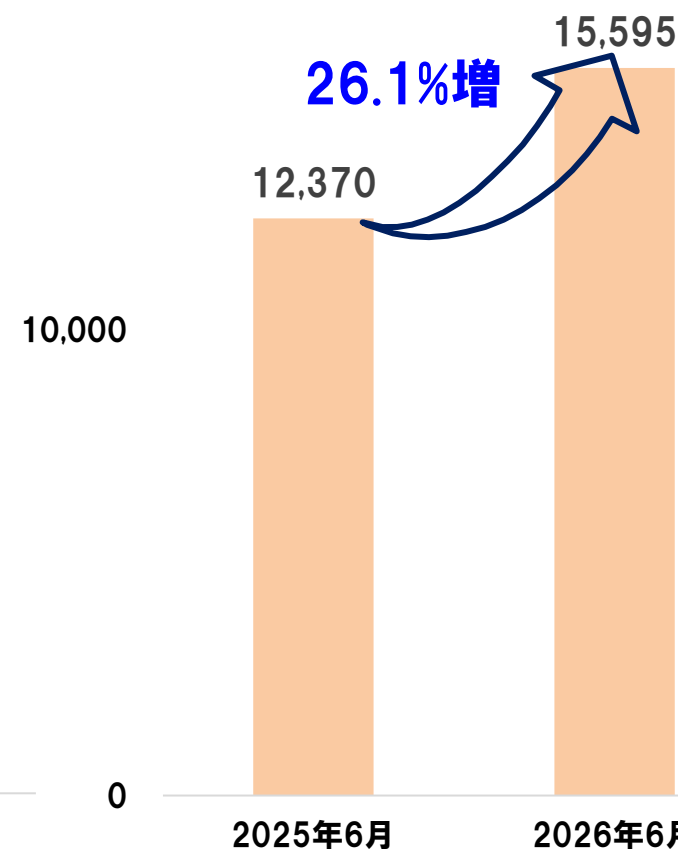
(単位:億円)



(単位:億円)



(単位:億円)



運用残高は国内第9位 単独12位・24位・30位の3社が、統合で躍進

(単位:億円)

順位	運用会社	純資産額
1	野村アセットマネジメント株式会社	902,076
2	三菱UFJアセットマネジメント株式会社	663,945
3	大和アセットマネジメント株式会社	471,172
4	アモーヴァアセットマネジメント株式会社	423,937
5	アセットマネジメントOne株式会社	250,733
6	三井住友DSアセットマネジメント株式会社	191,912
7	三井住友トラストアセットマネジメント株式会社	187,254
8	ブラックロック・ジャパン株式会社	162,148
9	SBIグローバルアセットマネジメント(グループ3社)	129,819
10	ニッセイアセットマネジメント株式会社	117,554

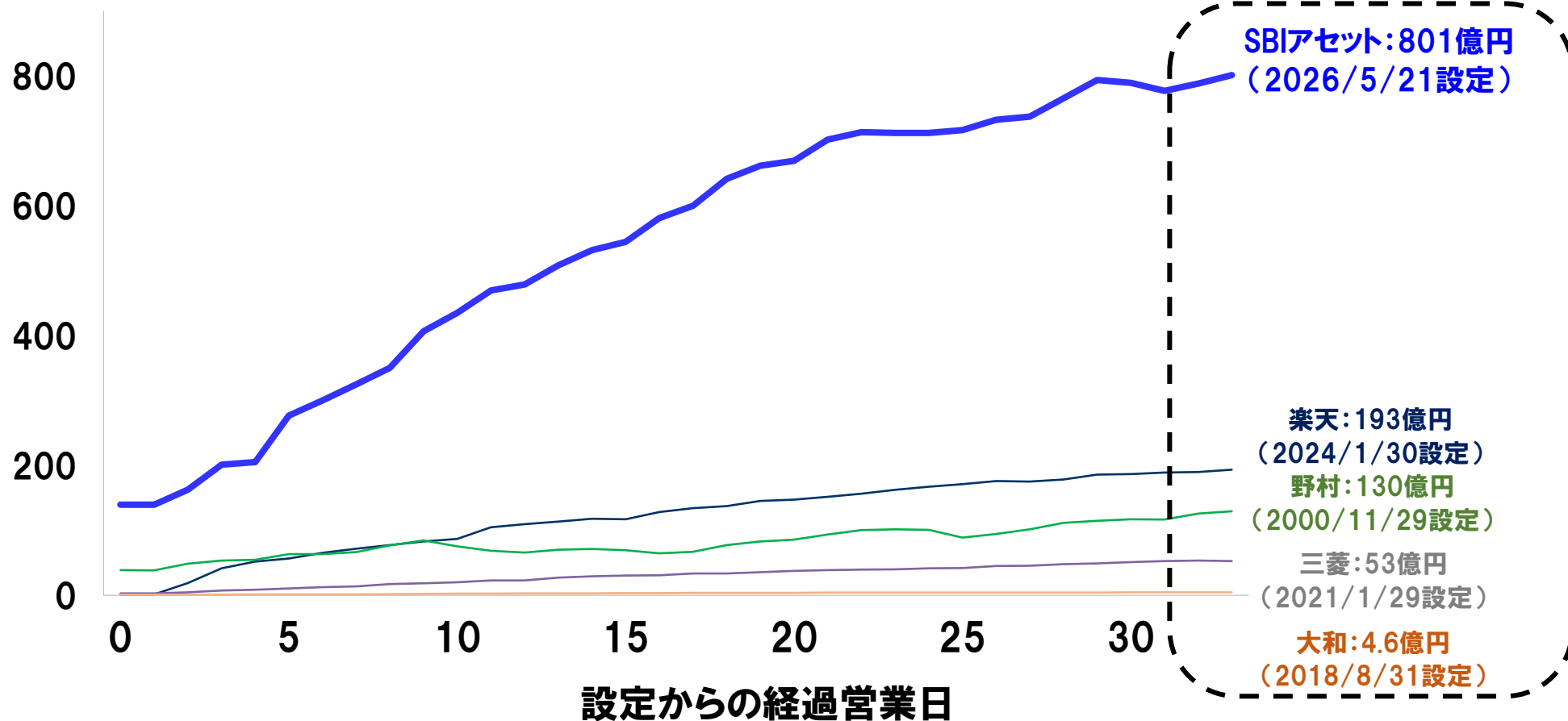
12	SBIアセットマネジメント株式会社	88,000
24	SBI岡三アセットマネジメント株式会社	26,224
30	レオス・キャピタルワークス株式会社	15,595

※投資顧問勘定・CARRET等(約1.0兆円)を含むグループ全体の運用残高は約14兆円

「SBI NASDAQ 100」設定後34営業日で800億円、 同種同等ファンド最速

- ・設定からわずか34営業日で純資産800億円突破
- ・同種同等ファンドの設定後の同期間比較で最速

(億円)

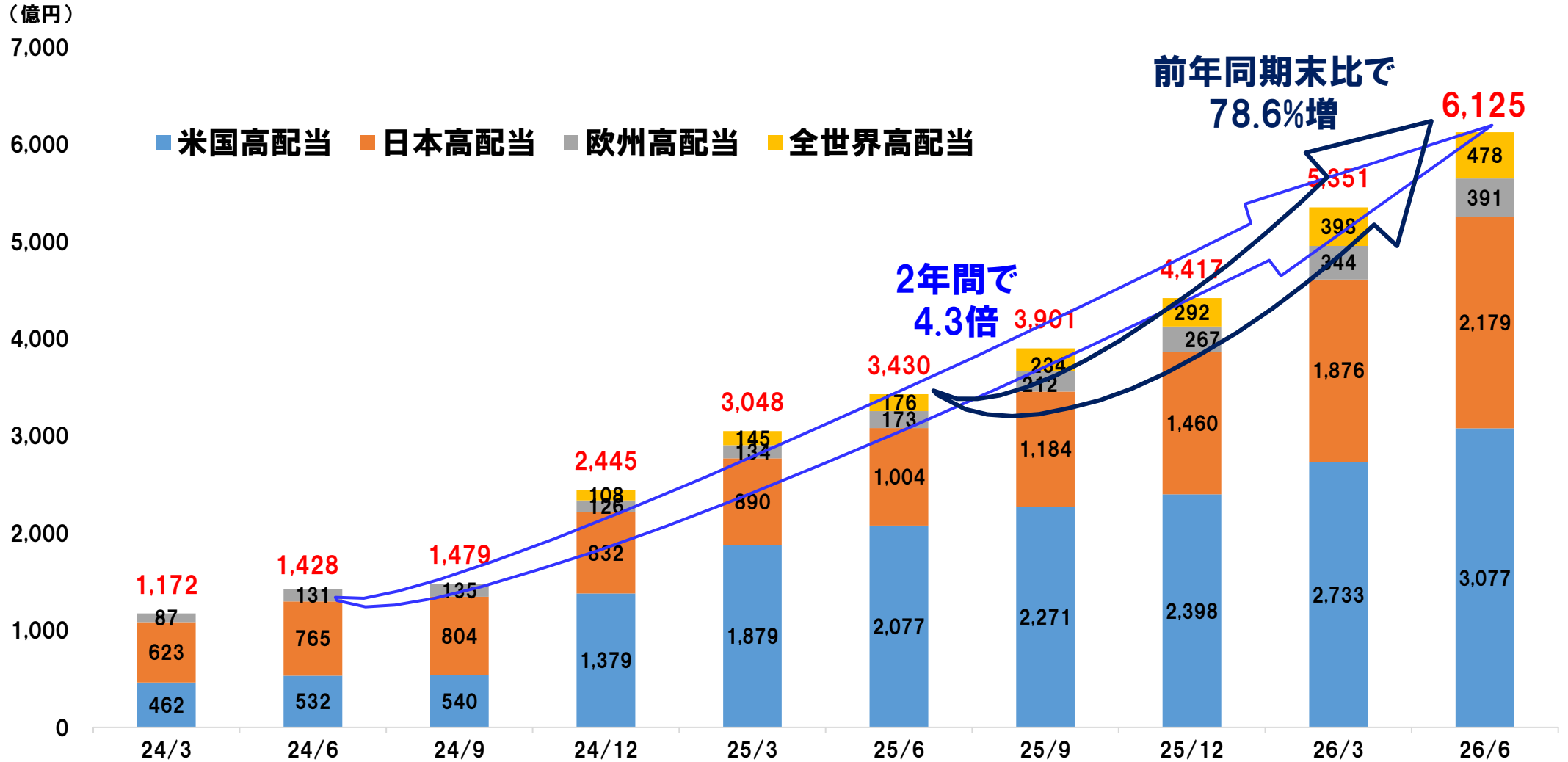


※設定日を0日目とした34営業日間の純資産総額の推移。SBI NASDAQ100インデックス・ファンドの場合、2026年5月21日(設定日)から2026年7月7日までの純資産総額の推移。

※当社調べ。比較対象ファンドは下記4ファンド

楽天「楽天・プラス・NASDAQ-100インデックス・ファンド」、野村「米国NASDAQオープンBコース」、三菱「eMAXIS NASDAQ100インデックス」、大和「iFreeNEXT NASDAQ100インデックス」

『高配当株式』シリーズの運用残高は、2年で約4.3倍



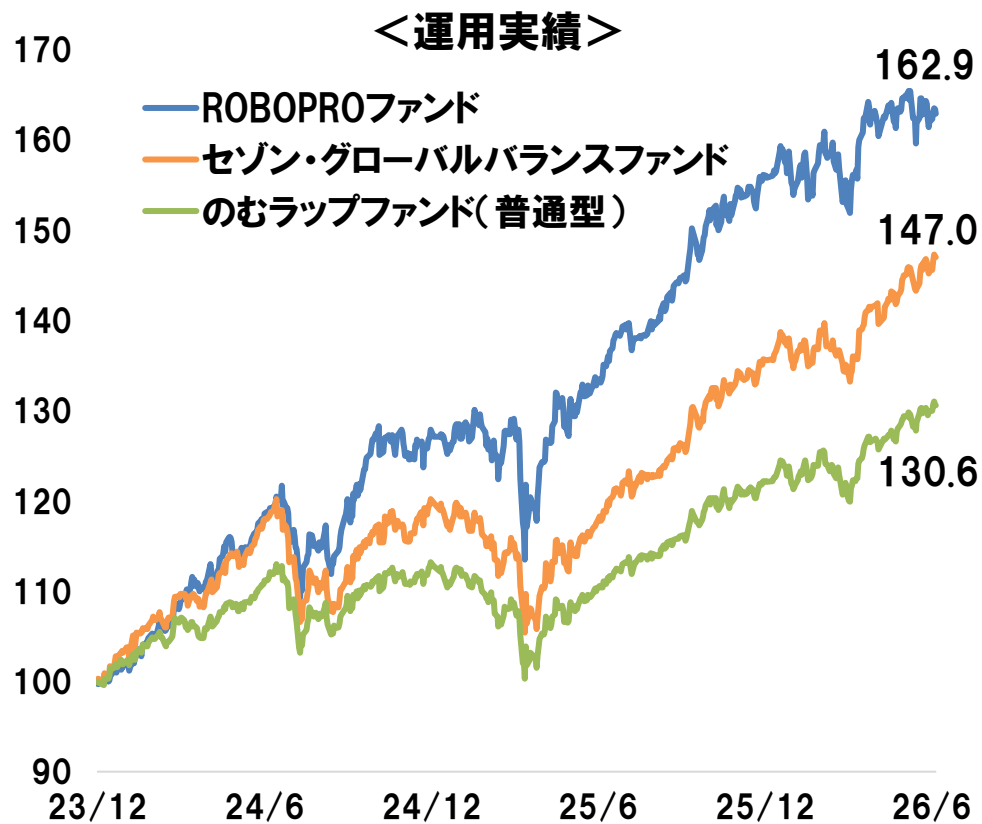
※

※

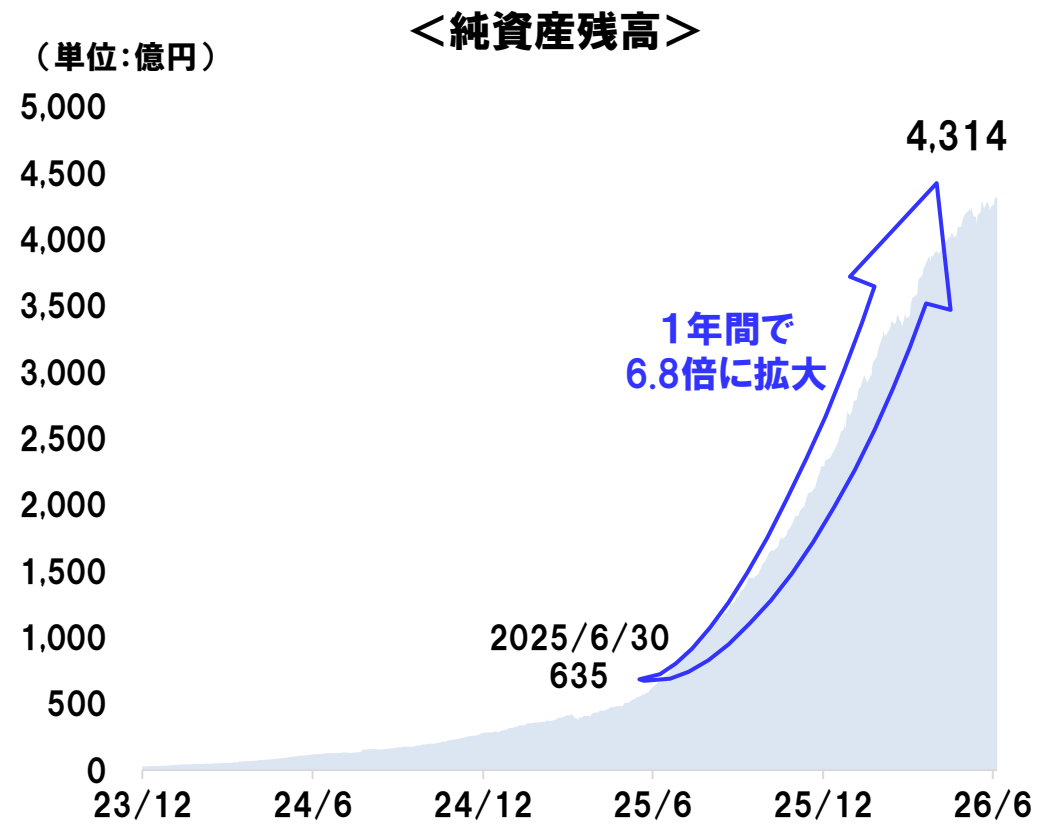
※

ROBOPRO — 設定来リターン約63%、残高は1年で6.8倍

設定来のトータルリターンは約63%



好調な資金流入で
純資産残高4,000億円を突破



※期間: 2023年12月28日(当ファンド設定日)～2026年7月3日
 ※2023年12月28日を100として指数化
 ※設定来トータルリターン: 分配金再投資基準価額ベース

※期間: 2023年12月28日(当ファンド設定日)～2026年7月3日

国内投信全体の1年リターン上位10ファンドのうち SBI岡三アセットの設定・運用ファンドは1位を含む3ファンドがランクイン

	ファンド名称	運用会社	リターン（1年）
1	アジア半導体関連フォーカスファンド	SBI岡三	255.02%
2	半導体関連 世界株式戦略ファンド	三井住友TAM	222.98%
3	世界半導体関連フォーカスファンド	SBI岡三	220.37%
4	しんきん日米半導体株ファンド	しんきん	183.32%
5	野村世界業種別投資シリーズ（世界半導体株投資）	野村	161.41%
6	ジャパン半導体株式ファンド	アモーヴァ	160.58%
7	半導体関連 日本株式戦略ファンド	三井住友TAM	160.01%
8	東洋・中国A株オープン「創新」	SOMPO	154.79%
9	グローバル仮想世界株式戦略ファンド	SBI岡三	149.98%
10	次世代通信関連 アジア株式戦略ファンド	三井住友TAM	140.97%

※出所：ウェルスアドバイザー
 ※2025年4月末～2026年4月末の1年間

ひふみ投信 — 基準価額10万円・マザーファンド1兆円を達成

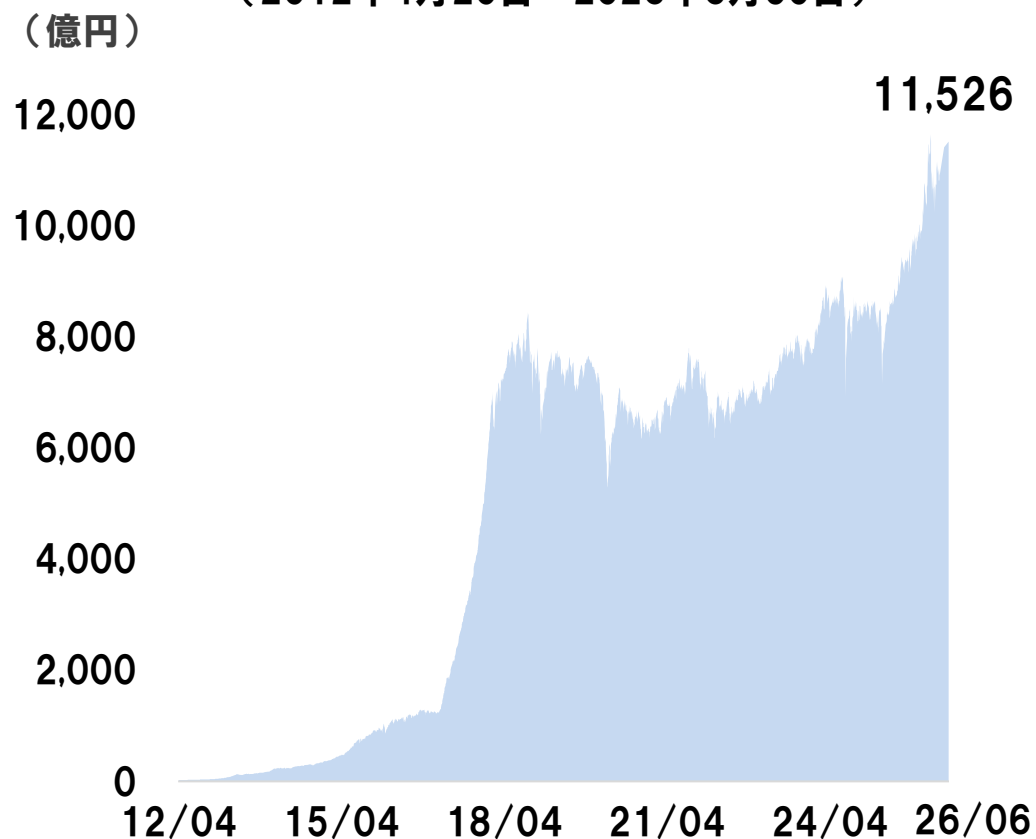
<ひふみ投信の基準価額>

(2012年4月20日～2026年6月30日)



<ひふみ投信マザーファンドの運用残高>

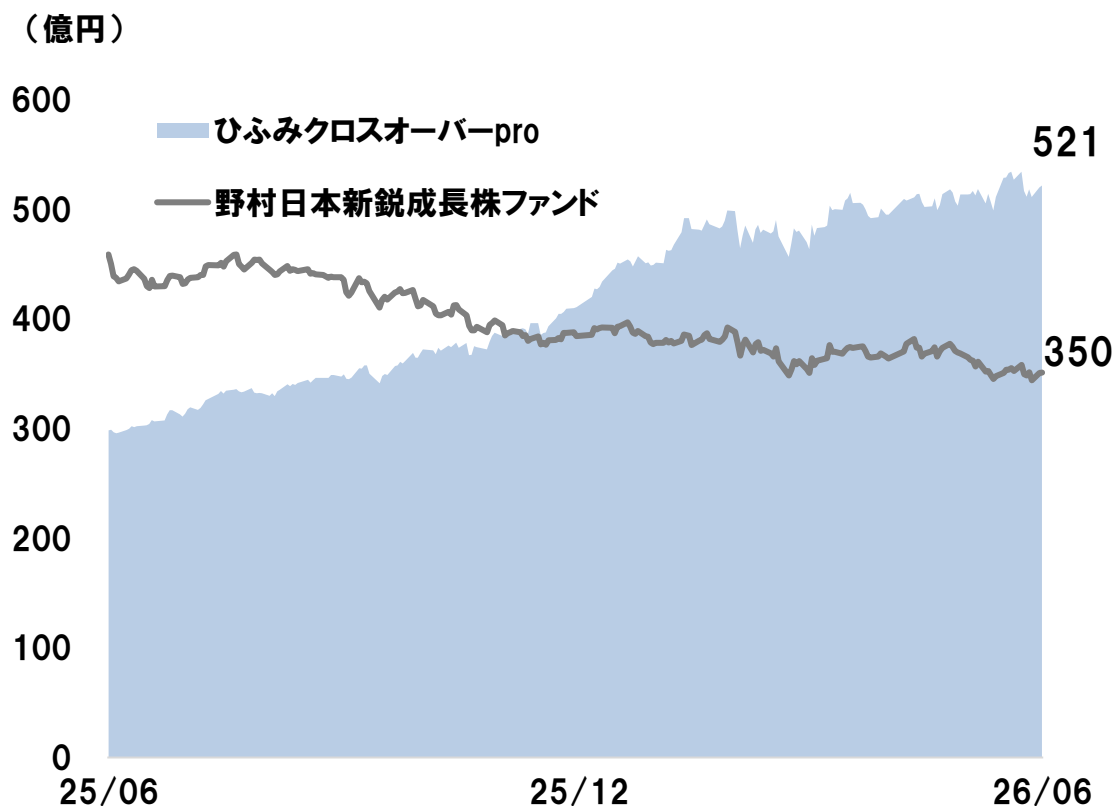
(2012年4月20日～2026年6月30日)



未公開企業組み入れの「ひふみクロスオーバーpro」は、運用残高・運用パフォーマンス共に、競合ファンドを上回る

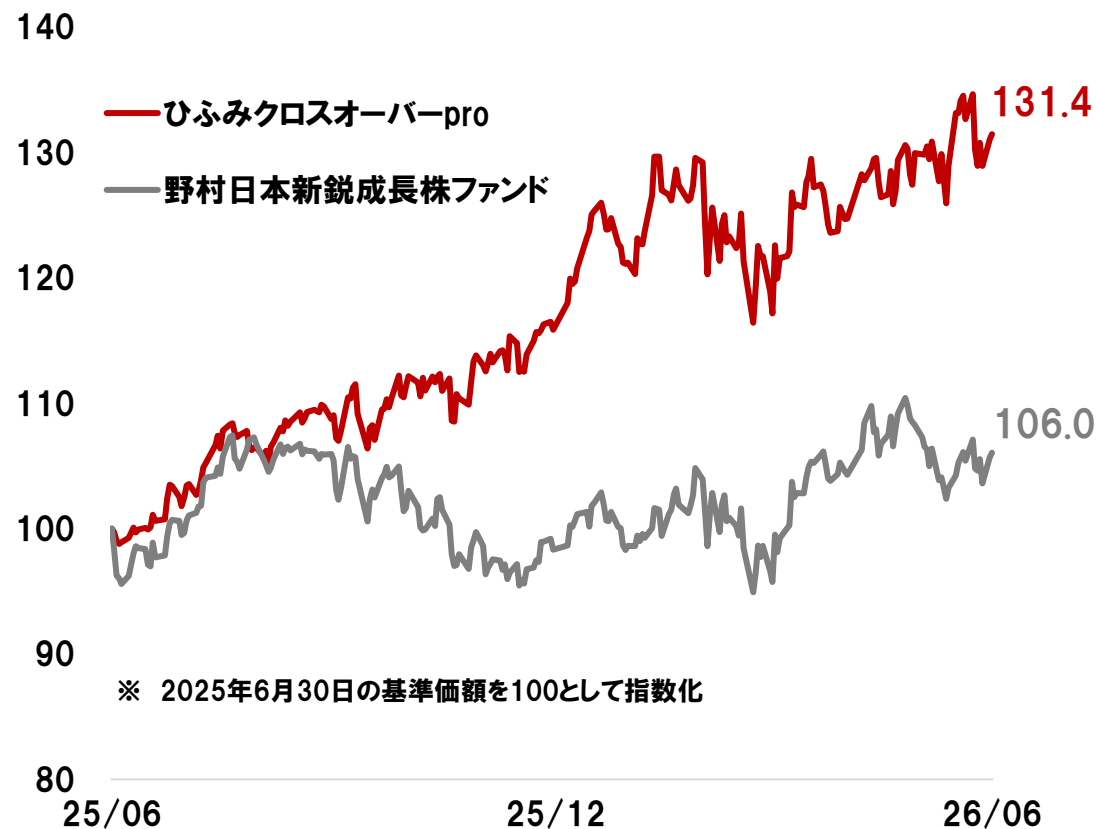
<運用残高>

期間:2025年6月末~2026年6月末



<運用パフォーマンス>

期間:2025年6月末~2026年6月末

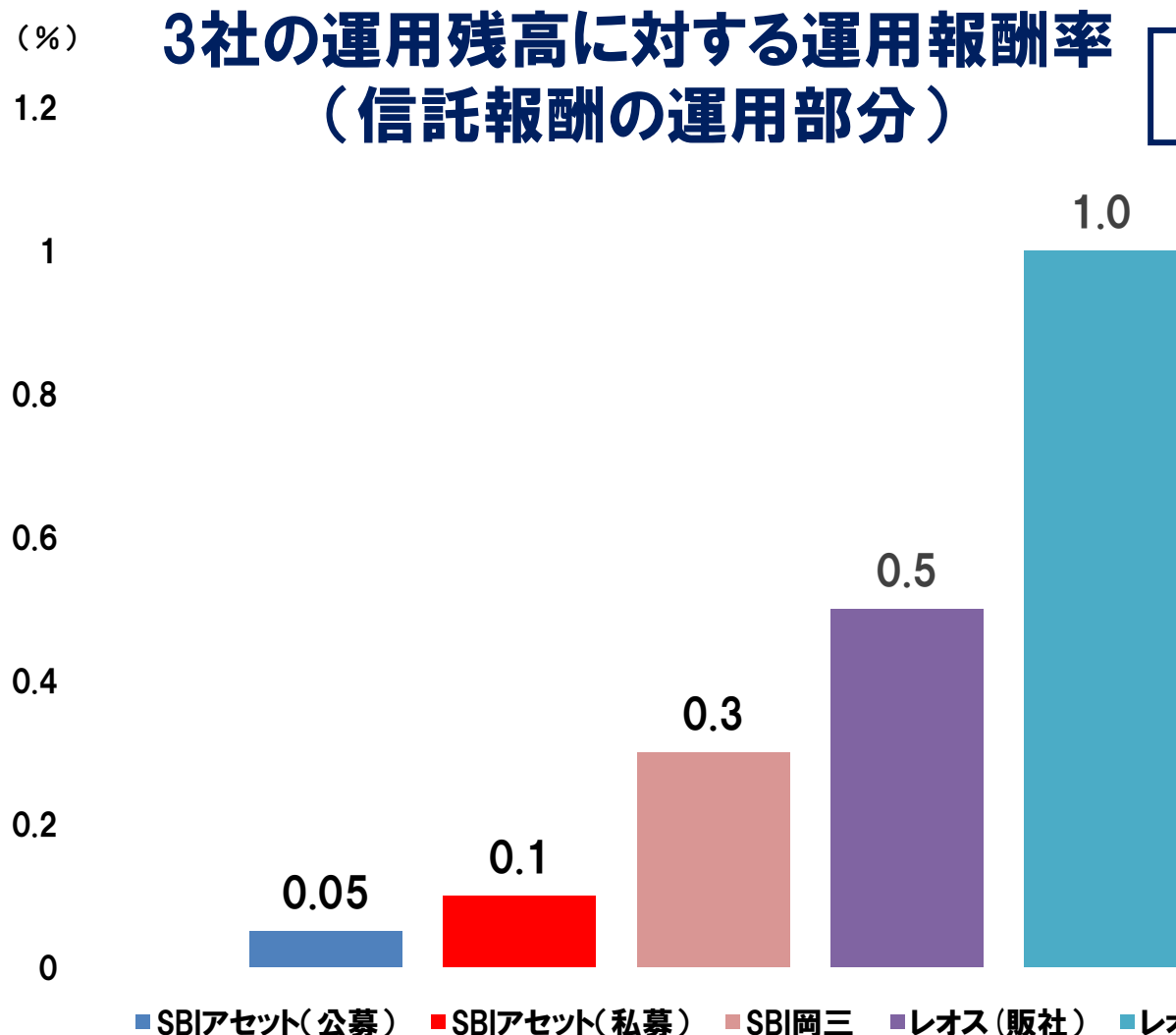


PART 2

成長戦略 — 量から質へ

オルタナティブ・デジタル・直販・海外M&Aで高収益化を実現

「インデックス」&「アクティブ」から、「オルタナティブ・デジタル」 に展開し、運用報酬率を高める



2030年に向けて、「オルタナティブ・デジタル」に展開することで、
現在の平均運用報酬率
0.23%を0.30%に向上させる

<オルタナティブ・デジタル>

Man

PIMCO

KKR

FRANKLIN
TEMPLETON

SBI Okasan Alternative Investment

RHEOS CAPITAL
PARTNERS

「4つの成長エンジン」により運用報酬率を向上

(単位:億円)

	施策	現在の運用残高 (2026年6月末)	2030年の 運用残高	平均運用報酬率 (%)
1	オルタナティブ (私募含む)	26,300	40,000	0.4
2	デジタル (暗号資産・RWA)	－	30,000	0.2
3	直販口座	3,000	10,000	1.0
4	今後の 国内外M&A	－	200,000	0.4
	合計	29,300	280,000	約0.4

SBI-Man リキッド・トレンド — 1年リターン+44.9%

公募のヘッジファンド53本中 第1位

「ヘッジファンド」カテゴリー平均を+34.4%上回る



	1年リターン (%) (2026年6月末基準)
リキッド・トレンド・ファンド	44.9
ヘッジファンド・カテゴリー (53本)	10.5
カテゴリー差	+34.4
順位	1位



KKRの「米国バンクローン」の機関投資家向け提供開始

低格付け資産(BB～B)を投資対象とするが、
KKR運用の「米国バンクローン」ファンドはデフォルト時の弁済順位が高い



2026年6月、国内大手機関投資家が200億円にて運用を開始

- ✓ 期待利回り: 7.5%
- ✓ 日次の流動性を提供

※「期待利回り」は、将来の成果を保証するものではない

暗号資産ETF・投資信託で運用残高拡大を目指す

制度施行(2027年度見込み)を前提に商品・販売体制を整備

国内上場ETFおよび公募投信の活用により
暗号資産投資の裾野を拡大



「暗号資産ETF」

個人投資家・機関投資家
＜リアルタイムの投資＞

「暗号資産 投資信託」

主に個人投資家
＜積み立て投資＞
＜証券会社・銀行・郵便局等＞

オンチェーン資産運用を次の成長エンジンへ

RWA(トークン化資産)の市場規模は2034年に30.1兆ドルへ拡大

＜投資家メリット＞

24時間365日取引、即時決済・送金、ステーブルコイン対応、DeFi活用による利回り向上

世界初、「日本株ファンド」をオンチェーン化



今後はトークン化した「円建てMMF」、「日本国債」、「J-REIT」を設定する予定

直販の報酬率は1.0% — インデックスの運用報酬の20倍

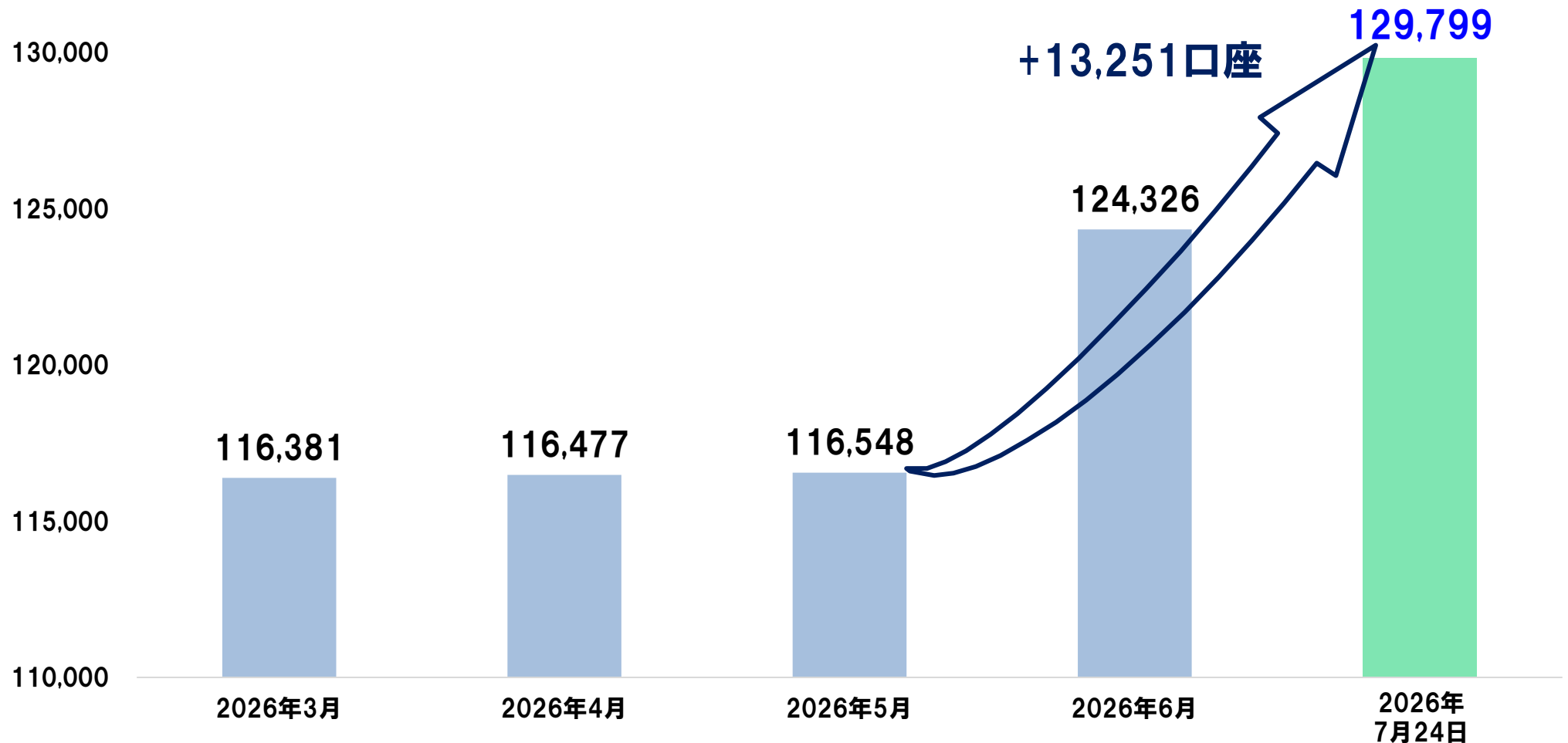
レオスの直販基盤を活用し、グループの運用商品を直接提供

グループ一体化を加速し、直販戦略を強化



レオス・キャピタルワークスの直販口座はSBIグローバルの株主優待でのファンド配布を契機に拡大

＜レオス・キャピタルワークスの直販口座の推移＞



世界のマネーを取り込み、M&Aで20兆円を積み増す

海外展開・M&Aを成長加速の中核戦略へ

実績：世界最大のSWFノルウェー政府系年金基金(運用資産：2.1兆ドル)から受託
レオス・キャピタルワークスが運用資金を受託 — 世界の機関投資家が当社の運用力を選定

① 世界の機関投資家マネー

SWF・年金基金・ファミリーオフィス向けに
高付加価値の私募ファンドを提供

ノルウェーの受託を起点に、SBIグループの
海外ネットワークでグローバル投資家基盤を拡大

② 海外運用会社のM&A

伝統資産・オルタナティブ双方の運用力を獲得し、
グローバル運用プラットフォームを構築

2030年 + 20兆円



M&A・統合の実行力は、国内で実証済み

- SBI岡三アセットマネジメント(合併化後、営業利益 2.8億円 → 24億円・約8.6倍)
- レオス・キャピタルワークス(子会社化、直販基盤を獲得) — 買収後に利益拡大

PART 3

AIドリブン経営

完全AIドリブン化で生産性改革を加速

「完全AIドリブン化」で営業利益率25%へ 19.2% → 20.8% → 25%



AIX Officeの設置
(Transformation=X)

営業利益率
(2026年3月期4Q)

19.2%

営業利益率
(2027年3月期1Q)

20.8%

営業利益率
(2030年)

25%

全業務を、6つのFactoryに再整理・統合の上でAI化を実行



AI Document Factory

AI Data Factory

AI Governance Factory

AI Operation Factory

AI Corporate Service Factory

AI Information Factory

AI活用で5年以内に全体コストの5割強を削減

ファクトリー	削減(3年)	削減(5年)	主要施策
AI Document Factory	60%	60%	開示書類・目論見書等の自動生成、マーケティング資料等の効率化
AI Data Factory	40%	60%	企業リサーチ・議決権行使の自動化、外部データ統合基盤の構築
AI Governance Factory	50%	50%	コンプライアンス審査・ファンドモニタリング・内部監査の自動化
AI Operation Factory	4%	46%	投信計理・基準価額算出の自動化、IT運用のAI化
AI Corporate Service Factory	18%	60%	経費精算・給与計算、人事・総務業務の自動化
AI Information Factory	30%	50%	記事制作・配信、投信データ収集、グループ内業務統合での効率化
合計	30%	54%	

PART 4

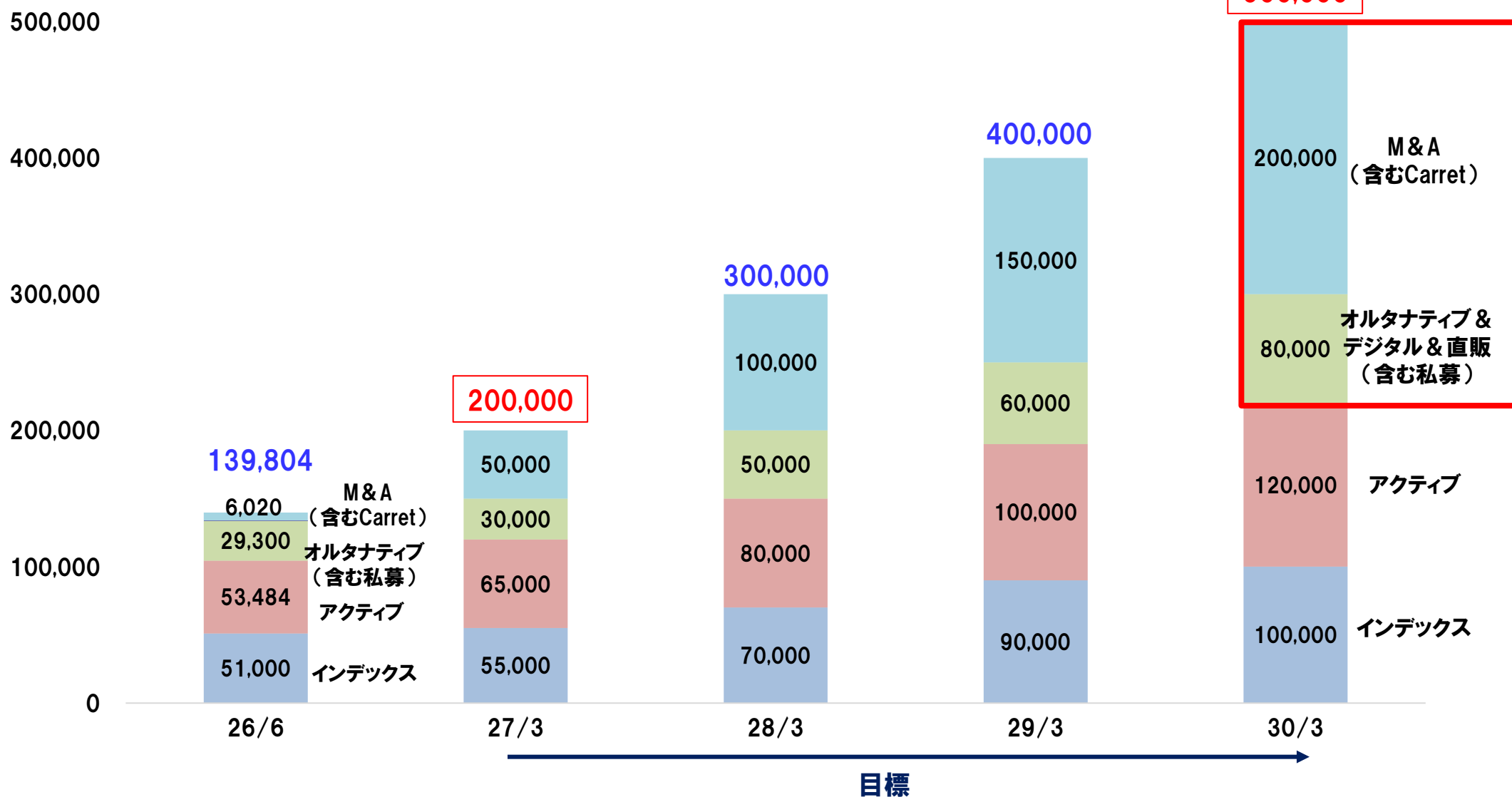
2030ビジョン

AUM50兆円・EPS130円～150円－次世代運用のプラットフォームへ進化

20兆円を突破し、50兆円へ ― 成長は加速

オルタナティブ・海外M&Aにより、高収益の運用残高を拡大

(単位:億円)

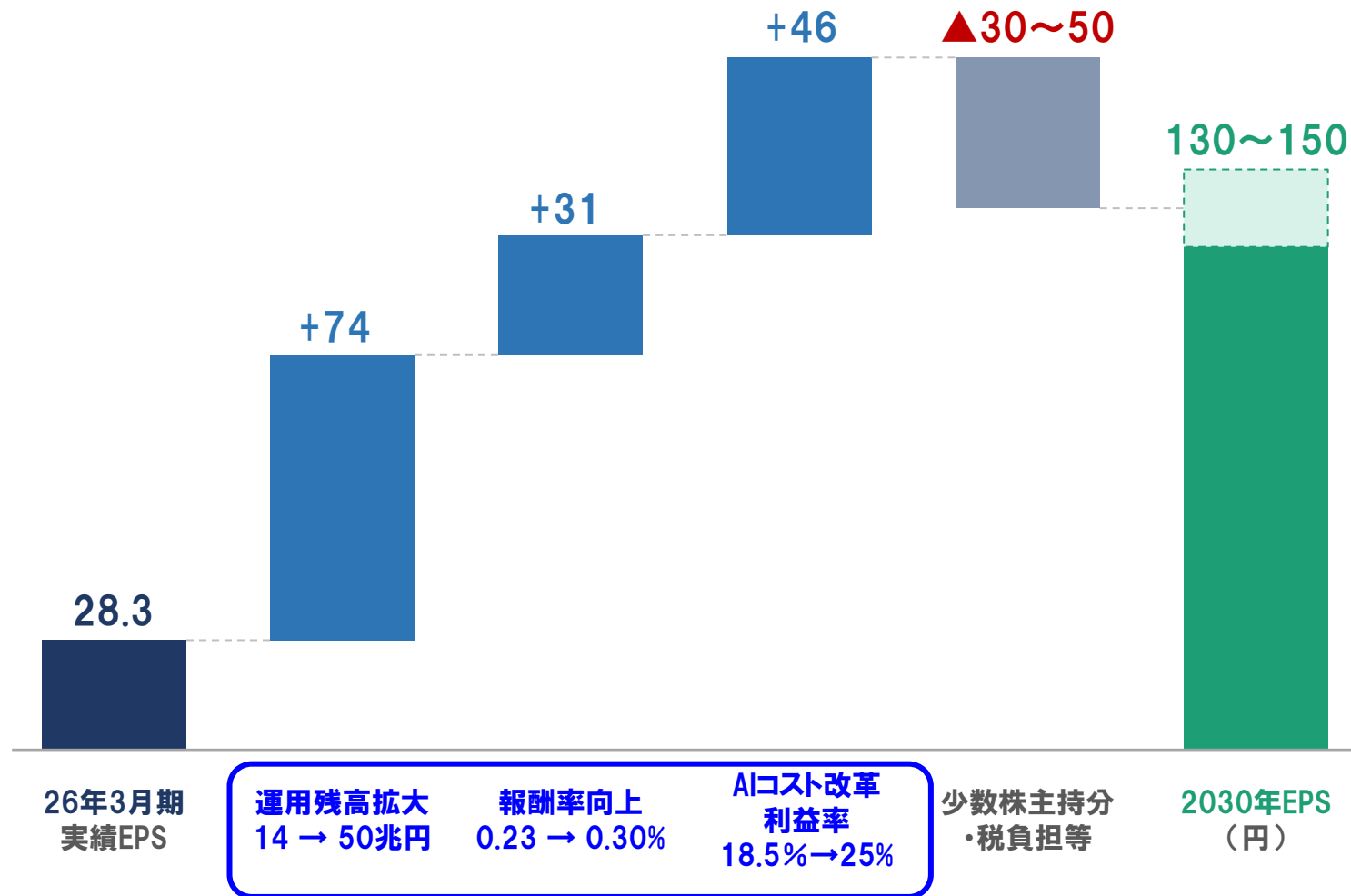


次世代運用のプラットフォームとして、 収益力と還元力を数倍規模に

	2026年3月期	2030ビジョン
運用残高	14兆円(26/6月末)	50兆円
運用報酬率	0.23%	約0.30%
売上高	279億円	1,500億円(5.4倍)
営業利益率	18.5% (27年3月期1Qは20.8%に改善)	25%
営業利益	51.5億円	375億円(7.2倍)
EPS	28.3円	130円～150円

2030年ビジョン — EPS130～150円への道筋

<EPSの道筋:3つの利益ドライバー>



※ 各要素の寄与は機械的試算によるイメージ

情報開示の拡充 ― 運用残高を月次開示へ

各社および連結の運用残高の進捗は、毎月の数字で確認

	これまで	これから
各社の運用残高の開示	四半期	月次 ※月次開示は2026年7月末残高分より開始
株主との対話	株主総会 (経営近況報告会)	株主とファンド受益者向けの SBIGAMオーナーズミーティング開催 2027年2月(予定)
情報発信	和文中心	英文開示・海外IRを拡充

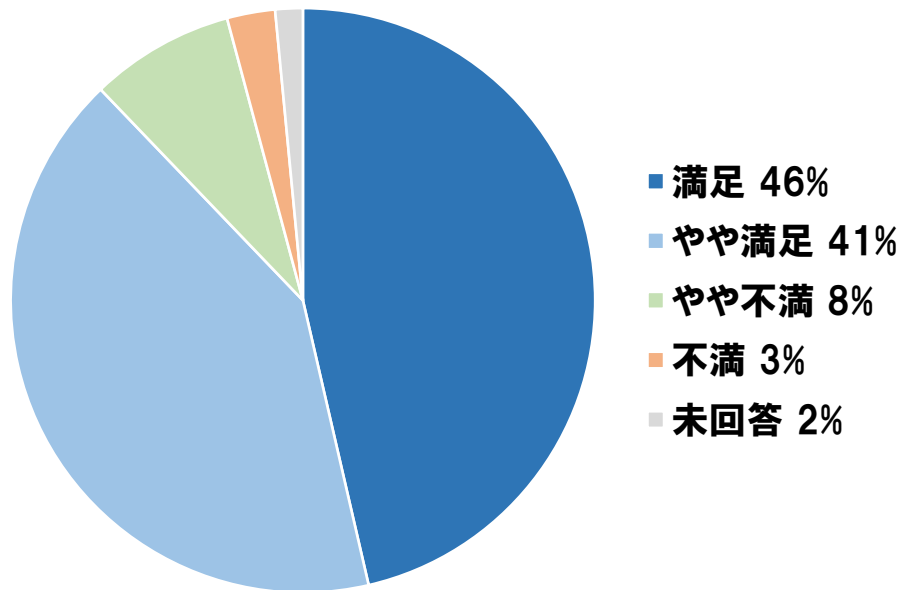
【ご参考】株主の皆様の声

第29期株主総会・経営近況報告会アンケート

株主還元への期待を踏まえ、資本政策と対話の場を設計していく

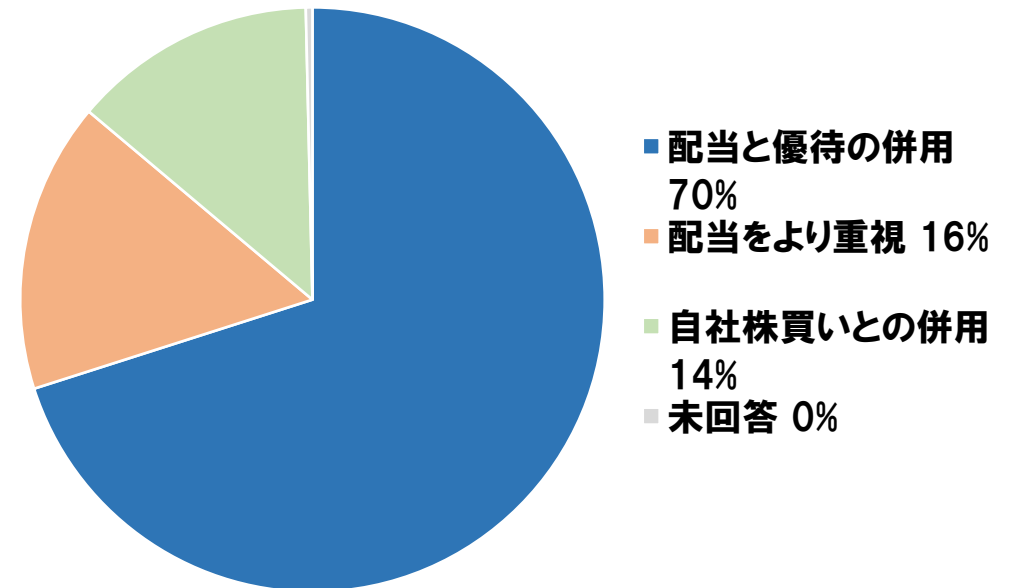
当社の現状の株主還元について

満足＋やや満足 87%



今後の株主還元を期待すること

配当と株主優待の併用 70%



主なご意見

- ・株価の向上への強い期待
- ・配当と株主優待の継続・拡充への要望
- ・経営近況報告会など、株主との対話の継続を望む声

※ 2026年6月17日開催の第29期株主総会・経営近況報告会にて実施。参加者数409名、回収計262名(会場122名・ネット140名)

※ 回答者は主に個人株主であり、株主全体の構成を代表するものではありません。